

「スポーツの力」×「東京2020大会」応援企画

世界からのメッセージ

フランス大使館



© IP3 PRESS/MAXPPP

大使からの挨拶

« Chers habitants de Tokyo ! »

(シエール アビタン ド トーキョー／親愛なる東京の皆さま)

東京オリンピック・パラリンピックが開催されるこの特別な年に、皆様にご挨拶する機会を得られて嬉しく思います。

昨秋、フランス大使として東京に着任して以来、2020年から延期されたオリンピック・パラリンピックが2021年に開催されることの重要性を実感致しました。日本政府と、とりわけ東京都は、目を見張るほどの決意と意志を示し、五輪の展望を維持し、その準備を続けていらっしゃいました。当然のことながら在日フランス大使館は、これまで何年もしてきたように、東京都の努力をサポートするだけでなく、より広く、オリンピズム・パラリンピズムの価値の普及に貢献し続けます。



数ヵ月後にはあらゆる条件がクリアされ、何年も練習を積み重ねてきた世界中のアスリートたちが、日本のスタジアムや千葉の波の上、あるいは日本武道館などで対戦を繰り広げられることを願ってやみません。柔道家のティディ・リネール同様、フランスのアスリートやチーム、ファンたちは皆、多くのフランス人が深く敬愛する日本という国でのこのイベントを、非常に待ち遠しく思っています。

ご存知のように、今回の夏季五輪の次は2024年のパリ五輪です。2024年パリオリンピック・パラリンピック組織委員会と共に、東京から学び、より持続可能で責任ある五輪にするために日本が取り入れたイノベーションやグッドプラクティスを参考にしたいと願っています。

そして私も、東京国際フランス学園の生徒たちと同じように（下記ご参照）、両首都間の引き継ぎ式が、私たちを結び付ける絆をさらに強くすることを望んでいます。
ではまた、そのときに！

フィリップ・セトン 駐日フランス大使

東京国際フランス学園の生徒からのメッセージ

2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、私たち、東京国際フランス学園の生徒は、この大規模なスポーツイベントを前に、期待に胸を膨らませています。

待ち望んでいることの中で最も大切なのは、ここ東京で、またとない経験ができるということです。例えばスタジアムで何かの競技を直接観戦したり、オリンピックの聖火リレーの走者を応援すること。世界で最も注目されているスポーツイベントの雰囲気味わうことです。

今年のオリンピックでは、野球やソフトボール、スケートボード、サーフィン、スポーツクライミングや空手などの新しい競技が見られます。パラリンピックでは、バドミントンやテコンドーです。東京都のイニシアティブなどのおかげで、今まであまり知らなかったスポーツをより良く知り、より高い関心を持つ機会になると思います。

また、このイベントが、2ヶ月くらいにわたる夏休みの素晴らしい経験になると期待しています。

でも私たちの期待は国内だけに留まりません。日本在住、あるいは日本国籍によって日本と結びついているだけでなく、フランスとも結びついている私たちは、東京とパリの間継続性があることを望んでいます。二つの都市で行われる大会が別々のイベントではなく、緊密な協力のきっかけとなり、両国の間に既に存在する絆をより強くする機会となることを願っています。（文：アヤ、東京国際フランス学園生徒）



フランスの二つの人気競技

数百万人の愛好家と、全国に散らばる18,000のクラブに200万人の登録選手を数えるサッカーは、紛れもなくフランス随一の人気スポーツです。19世紀末に英国から入ってきて、まずフランス北部に浸透し、今では全国区になっています。早々とフランスでの主なスポーツになったことで、フランス人であるロベール・グラン氏の働きかけにより、国際サッカー連盟（FIFA）の本部がパリに置かれることになりました。FIFAワールドカップを立ち上げたのもフランス人であるジュール・リメ氏で、1930年にウルグアイで第一回大会が開催されました。フランスは1938年と1998年の2回、開催国になっています。また、2019年にはFIFA女子ワールドカップも開催しました。

サッカー人気は女性の間、特に若い人たちの間で高まっています。ここ10年で登録女子選手は4倍になり、今では20万人に達しています。2019年の女子ワールドカップなど国際大会をフランスが開催したことで、女子サッカーの認知度が上がったのでしょう。

男子チームは現在、2018年にクロアチアに勝利して以来、世界一の座に就いています。このタイトルを手にするのは1998年以来、史上2回目です。ちなみに、20年の間隔を開けて、この2回とも勝利に貢献した人がいます。1998年のフランス代表チームのキャプテン、ディディエ・デシャンです。彼は2018年には「レ・ブルー」（フランス代表の愛称）の監督として優勝を成し遂げました。



フランスではサッカーは様々な形で実践されています。フットサル（屋内のハンドボールコートでプレーするもの）とビーチサッカーは、共にFIFA公式種目です。パラスポーツに即した形態もあります。車椅子サッカー、身体障がい者による7人制サッカーや、5人制サッカー、別名「ブラインドサッカー」もあります。視覚障がい者によるこのサッカーは、東京でのパラリンピックの競技となります。

サッカーが最も人気のあるスポーツではありますが、他にも人気競技は多々あります。テニス、乗馬、ラグビー、柔道、ハンドボール、そしてフェンシングもフランス全土で多くの愛好者がいるスポーツです。

例えばフェンシングは、登録選手の数はおよそ55,000人と少ないですが、世界最高レベルのアスリートを養成することに成功しています。最も有名な選手としては、エリック・スレッキ、ジャン＝フランソワ・ラムール、ローラ・フレッセル、ヤニック・ボレル、そして史上初のエペでの女子チャンピオン、ブリジット・ブノンが挙げられます。

フェンシングは様々な形態があるスポーツです。エペ、フルーレ、サーブルの3種目があり、個人戦や団体戦、健常者や身体・視覚障がい者の種目など…そしてスター・ウォーズのファンの方必見、フランスにはライトセーバー・アカデミーも存在するのです！

フェンシングでのメダル獲得数においてフランスは、オリンピックではイタリアに次いで史上2番めに多く、世界選手権ではロシアとイタリアに次いで3番めに多い国です。だいたい、ご存知でしたか？フェンシングの公用語はフランス語なのです。「アンガルド！プレ？アレ！」

東京オリンピックに向けたフランス大使館の活動



フランス大使館は何年も前から、2020年東京オリンピック・パラリンピックの準備に関係するイニシアティブを熱心にサポートしています。例えば、東京都がパラリンピック競技普及に向けたイニシアティブとして2019年の11月に小池都知事ご出席のもとで開催したポッチャの大会にも、大使館として参加しました。「パラスポーツパスポート」は素晴らしいアイデアです。近いうちに、東京大会の様々な競技のイラストによる「ピザ」をもっと取得できるよう、期待しています。

文化面でも、昨年の春の「フランコフォニー月間」が主に東京オリンピックに焦点をあてるよう、フランス大使館として注力しました。ご存知のように、フランス語はオリンピック公用語のひとつです。ですから都民の皆様がフランス語をより良く知っていただく素晴らしい機会となります。

フランコフォニー
月間2020



フランスからスポーツ関係の代表団が来日する際には、フランスのチームと東京の学校の生徒たちとの交流を促すようにしています。フランスのトライアスロンチームが江東区の越中島小学校を訪れたときの交流会は感動的でした。早くコロナ禍が収束して、このような異文化間交流を再開できることを願っています。

そして2017年以来毎年行われている「オリンピック・パラリンピック週間」は、若者たちにオリンピズムやパラリンピズムの価値を伝える大切なイベントです。フランス国内だけでなく、東京を始めとする在外の教育機関で、生徒たちは一週間、スポーツにスポットライトを当てます。2021年は東京大会のわずか数ヶ月前、2月1日から6日まで行われました。

「東京2020からパリ2024へ」- パリ2024組織委員会のメッセージ

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、2020年東京大会を待ち遠しく思っています！



オリンピック・パラリンピックムーブメントはいまだかつてないほどに、友情、卓越性、闘志と連帯の価値をこの祭典で祝います。東京大会がより良い日々への希望を象徴するなら、その運営は地球が直面している課題に見合ったものでなければなりません。2021年に延期しての開催は、レジリエンスと適応能力の証左であり、不安定要因が存続する明日の世界に鑑み、パリ2024にとって非常に参考になるものです。

国際オリンピック委員会のオブザーバープログラムの一環として、パリ2024組織委員会の代表団が2021年夏に東京を訪れます。スタッフにとっては、大会運営の様々な側面について具体的に学び取り、東京大会で取り入れられたイノベーションを参考にできる、とても重要な時期となります。特に、アスリートや観客、テレビの視聴者に最高の経験を提供するために特別に活用される先端技術などが挙げられます。

何よりも東京大会は、パリ2024年大会にとって重要なタイミングとなります。東京都知事からパリ市長に五輪旗が引き継がれるフラッグハンドオーバーセレモニーが行われ、パリ2024年オリンピックの幕開けとなるのです！

ティ・リネール(柔道世界選手権制覇、オリンピック金メダリスト)のメッセージ



東京の友人の皆様！

昨年の春、2020年の東京オリンピック・パラリンピックが1年延期となったとき、世界中のアスリートたちは当然のことながらがっかりしました。オリンピックは4年に一度しか開催されず、皆、この唯一無二の大会のためにがむしゃらに練習をします。でも、一番大切なのはそれぞれの健康を守ること、2021年により活躍するために今は耐えることだ、と皆、すぐにわかりました。

私と同じように、皆さんも夏を待ち遠しく思っていて、東京大会で多くの世界覇者たちが対戦するのを早く見たいと思っていますことでしょう。私も皆さんと再会して、オリンピックという、アスリートの人生で最も重要な舞台上で競えることを嬉しく思っています。最も希少な大会を前に、しかるべきときに実力を発揮できるように、私は毎日練習しています！日本は愛着がある国で、何年も前から、毎年行くのを楽しみにしている国です。東京には50回以上行ったことがあります。だからこそ、2021年7月30日に日本武道館で、3度目のオリンピックタイトルを手にするのが夢なのです。準備期間があと数ヶ月あります。見ていてください。ベストを尽くします。東京の皆さんはそれまでお気をつけてお過ごし下さい。

では夏にお会いしましょう。《 A bientôt 》 (ア ビヤント/ではまた)
ティ・リネール

Crédits photo : KMSP Philippe Millereau

フランス大使館HP



フランス大使館FB



@ambafrancejp



@ambafrancejp_jp



こちらのニュースレターはウェブで見ることができます！
今後も更新していきますので、お楽しみに！

オリンピック・パラリンピック準備局HP (ホームページ)

<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaiyunbi/kanren/embassies/index.html>

